

# 精神疾患患者さんの看取りについて －事例をもとに－

大阪鉄道病院緩和ケア内科  
和田知未

# 1. 精神疾患に関する理解について

正常心理の応用では了解できない病理が存在する

量的な異常



異常      正常      異常

質的な異常



正常      異常

心を砕いて接しても、感謝や信頼といった通常期待される反応が必ずしも得られない

何が分からないかが分からない  
患者からしか学べない

## 2. 医療者側のところもちについて

「どうしてあげたらよいのか」  
うまくいっていない感じ、無力感、陰性感情

「もっとよくなる」ものなのか「これでよし」とする  
のか

Negative Capability

不確かさ、不可思議さ、疑惑の中にあって、性急に事実や理由をつかもうとせず、そこに居続けられる能力

### 3. 意思決定について

精神を病んでいても、たいてい「意向」は存在する

支援者の意向も含めて方向性が決まる

言語的なコミュニケーション以外の情報を寄せ集めて  
推し量ってゆく

意向や実行可能性は途中途中で変化してゆく

「ずっと帰りがたっていたので、訪問の先生や看護師  
さんに助けてもらい家で看られてよかったと思う」